

令和3（2021）年度入学試験問題出題のねらい・解答例 （学校推薦型選抜）

中村学園大学短期大学部〔キャリア開発学科―公募制Ⅱ期〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

学校推薦型選抜公募制Ⅰ期に引き続き、公募制Ⅱ期においても、グラフを読み取り、考えを述べる出題形式とした。現代社会にはさまざまな情報があふれている。情報の正誤を判断し、それらの情報から何を読み取り、どのような結論を導くかが私たちに求められている。

今回は、日本財団『18歳意識調査』の中から第20回18歳意識調査「テーマ：社会や国に対する意識調査（自分の国が将来、どのような国になって欲しいか（複数回答）」の数値とグラフを提示し、与えられた資料を基に、受験生諸君がどのように分析し、自分自身の考えを限られた文字数の中で表現できるのかを問うのが出題の意図である。

自国内の順位に焦点をあててみると、日本では「平和な国」が647件で10項目中1位であるが、韓国では373件で4位である。また、日本では「国民の幸福度が高い国」が557件で10項目中2位であるが、ドイツでは322件で8位である。それぞれの国によって、様々な特徴が数値に表れている。これらの項目にどのように受験生諸君が着目し、どのように読み解いたのかについて興味があった。

【漢字の書き取り】

問題の指示に従い、漢字を正確に記述する。

〈講評〉

問題一、漢字の書き取り

漢字の書き取りの正解は①検閲、②卸値、③筆跡、④貨幣、⑤制御、である。間違えの例としては、「閲」「制」が書けていないものが多く、「卸」の横棒が一本たりないものも見受けられた。漢字を学習する際は、その意味を理解しながら、正確に覚えるようにする必要がある。

問題二、小論文

日本の数値を中心に考えを述べている受験生が多かった。日本の回答として「平和な国」が10項目中1位であり、平和の大切さについて、過去の戦争などを例に挙げ平和の大切さについて述べている。しかし、日本のデータに着目しすぎるあまり、他国のデータの特徴について論じたり、国家間の差異を比較・分析したりするなど、視野の広さと考えの深さを示しているかと言えば、物足りなさを感じる。

そのなかで、「経済的に豊かな国」について数か国を比較して意見を述べているものがあった。数値の特徴をしっかりとらえており、とても感心させられた。それぞれの国に特徴がある。日本以外の国の状況をデータで見ることにより、他国と日本のデータを比較し、さらに深く日本の数値の特徴について考えることができていた。

個性的なものとしては、日本のデータにはほとんど触れず、アメリカと韓国のデータを比較して意見を述べているものもあった。なぜアメリカと韓国だったのだろうか。受験生諸君の着眼点の多様性に驚きを感じた。

図に数値やグラフが提示されている場合は、その内容を読み取り、今回のように各国比較できるようなものであれば、ほかのデータにも着目し、それらについて比較検討し、そのうえで意見を述べるのが重要である。グラフ内の数値を適切な分析と自分の意見の2点を評価のポイントとした。